

令和2年度 スクールコンサート 渡辺知子一座 **生命が光る** ～決して決して決してあきらめない～

音楽活動を通して生きるすばらしさや命の大切さを伝え続ける渡辺知子さんと渡辺知子一座のみなさんによるスクールコンサートは、今年で14年目を迎えます。

令和2年は、誰もが想像しえなかった、試練の年となりました。



♪ 開催校 ♪

10/6(火) 引野中学校

10/7(水) 折尾中学校

10/22(木) 向洋中学校



世界中の人々が、新型コロナウイルスによって、生活のリズムがすべて変えられ、命も、仕事も、人の心までも、影響されてしまいました。

そんな中、3校の中学校の先生方は授業日数が足りない等のお悩みがある中で「こんな時だからこそ、生徒たちに聞かせたい」と、公演を決断していただき、コンサートを開催することが出来ました。

過去、13年間は当初からの渡辺知子さん（以下知子さん）の願いで、生徒達となるべく近くで、目を見ながらの演奏、お話ししたい…と、ステージの下、生徒達と同じ目の位置で、コンサートを行ってきました。

しかし、今年は3密（密閉、密集、密接）を避けるために体育館のステージで行うこととなりました。

音響スタッフさんや開催校の先生方も、各学校で、ステージの幅、奥行きの違いがある中、会場のセッティングをしてくださいました。

秦しのん君は、特別支援学校の高等部2年生です。発達障害があり、初めは音楽にも興味を示しませんでした。5年後の今は、自身に障害がありながらも、レンコンさんの援助や演奏が出来るようになりました。葉奈ちゃんは、慶成高等学校福祉科1年生になり、将来は介護士になる決意をしています。



今年開催した中学校、北九州市立引野中学校、折尾中学校、向洋中学校、3校どこの生徒さんも、音楽とトークを吸い取るように聞いてくれました。同年配の しのん君と、葉奈ちゃんの出演には特に驚いたようでした。

出演者全員で叩く、日本太鼓のオリジナル曲、『炎』にも、生徒全員目が釘付けになりました。

レンコンさんが足で太鼓を叩く！

知子さんの言葉、「障害は不便かもしれない。でも、決して不幸じゃない。夢があれば何でも叶う」この言葉を生徒達がしっかり受け止めた瞬間でした。



知子さん達は、ステージで4～5回、着替えをします。「曲のイメージを、衣装でも表したいからです。スクールコンサートでも、また、違うステージでも、聴覚障害のある方がいたら、音は聞こえませんが。」

また、知的障害のある方がいたら、歌詞の意味が分かりづらいかもかもしれません。だから、少しでも音楽を感じていただくために着替えを多くしています。そして、聴覚障害の方のために、手話を取り入れています。今、聞こえてる、見えていることは奇跡なんだ…と、感じてほしいのです。レンコンは手話を足でします。指導するときは、足を持って何度も何度も繰り返し教えました！挑戦する人も自分を信じる。そして、教える私も、彼女なら出来る…と信じる。だから、出来るのです！」と、知さんは熱く伝えます。

いつもならコンサートのラストは、生徒達の間に入って行き、手を握り合ったり、ハグをしたりしますが、今年は無理です。でも、大きな手拍子が、体育館に響きました！

『生きている』ことへの感謝の気持ちが、参加生徒全員の心に響き、本年度もまた、沢山感動の声が届いています。



ありがとうございました



参加生徒の感想文から

よく「人は一人では生きていけない」と言われているけれど、渡辺さんの曲を聴いて、改めて「そうだな」と思いました。現在コロナで大変な人がいる中で、いじめが起きたりしてとても悲しいと思います。こんな時期だからこそ一人一人が協力して皆が少しでも繋がればと思います。また、障害のことを受け入れられない人が少しでも減って皆が楽しく過ごせる日がいつか来てほしいと思います。(中学2年生)

渡辺さんのスピーチは、とても大切な言葉が入っていて勇気をもらいました。私は辛い時、だれにも相談せずにつめ込みます。でも一番初めの曲やスピーチを聞いていると、もっと周りに頼ったりした方が良かったことが分かりました。皆さんが楽しそうに音楽をしていることに、うらやましいと思いました。今日は一番楽しかったです。今日学んだことをしっかり受け止め、夢を忘れず夢を持って、色々なことに挑戦して生きていきたいと思います。(中学2年生)

力強い歌声、音楽が聴けてとても嬉しかった。手話をしながら歌っていて、どんな人でも楽しめるよう工夫されていて感動した。一番印象に残っているのは「ありがとう」の反対語は「当たり前」だということ。～してもらえて「当たり前」ではなく、してもらっていることに感謝しなくてはいけないことに気づいた。そして自分が普通だと思っている全てが奇跡であることを改めて感じた。これからも自分はもちろん、周りの人を大切に感謝しながら生活しようと思う。(中学2年生)

スクールコンサートを通して、私はどんなに離れていても人の心はつながれるという事が分かりました。演奏を聴いたり、手拍子をしたり、知子さんの話を聞いたりしていくうちにちゃんと心がつながったような気がしました。心のつながりは目には見えないあやふやなものだけど、確かにつながっていたと思います。演奏を聴いていくうちに、演奏者の方々のあきらめない心が私たちにも伝わってきました。これから生きていく中で大切なことを沢山知ることができたと思います。(中学2年生)

みなさんの演奏は本当に息ピッタリで、つらい練習を重ねてきた成果がちゃんとでているなと思いました。私の姉は重度の障害をもちますが、毎日頑張っている生きています。今は施設に入っていますが、いつか一緒に暮らせたらいいなと思っています。姉は毎日施設の中でさみしいはずなのに、会いに行ったときはいつも笑顔で笑っています。例え障害や病気があっても、そうやって笑顔で過ごせる人がいるということは、忘れてはいけないと思いました。(中学3年生)

渡辺さんの曲の中に勇気づけられる歌詞がたくさんあって、今自分が不安に思っている事が少し楽になれた気がしました。「夢は～になりたいではなく～になる」と言い切ってしまうことが大切だと教えてもらって、なんだか自信が持てた気がしたし、絶対に叶えてやろうと思いました。叶うが吐くにならないよう渡辺さんのように夢を叶える努力をしたいなと思いました。(中学2年生)